



に勤務し、市外から三条市に移住した看護師の方に支援金を支給する制度を今年度創設しました。既に制度を利用して三条市にいられた方もいます。

また、今年3月には、燕市や弥彦村方面からのアクセス向上のために整備した市道大島164号線が一部完成し、弥彦村から燕三条駅までの移動時間が10分短縮したと聞きました。また、完成は数年後になります。また、完成は数年後に済生会新潟県央基幹病院へのアクセス道路となる市道上須頃262号線の改築事業に今年度着手しました。病院のある自治体として人材確保やインフラ整備の責任は果たしていきたいと考えています。

10月から、市内各地での市民の方への説明会を開催します。再編される医療提供体制について詳しく丁寧にお伝えしていきます。

**市長** ■開院に向けた期待と意気込み

開院により、県央地域外への救急搬送が減ることを期待しています。また、地域医療の軸となる病院

ができることで、介護や福祉も含めた地域医療の力をいかに底上げし、取り組みをスピードアップさせていくかを考える良い機会になると考えています。

**遠藤病院長**

救急医療、高齢者医療の課題に十分に対応できるようにしっかりと準備し、地域の皆さまに安全で安心な医療を提供してまいります。また、地域の皆さまに新しい医療提供体制をご理解いただけるよう、市と連携して発信してまいります。さらに、この地域で次世代の医師を育成し、日本の地域医療のモデルと成り得る新しい病院づくりを行い、県内外に発信していきたいと思っています。

**市長**

次世代の医師の育成の点においては、令和7年4月に新潟県立三条高等学校に理数科とメディカルコースが開設されます。済生会新潟県央基幹病院の先生方から三条高校の生徒や市内の中学生、小学生に医師の魅力を教えるなど、将来の人材育成にも協力いただければと思います。

**遠藤病院長**

1人や2人で暮らしている75歳以上で、介護してくれる人がいない方は多くいます。そういう方は一度入院するとそのまま長期入院となることが多くあります。行政と連携して施設や在宅でのケアを推進していければと思っています。

■済生会新潟県央基幹病院の開院準備の状況と市の取り組み  
**遠藤病院長**

来年3月の開院を見据えて救急の準備を進めており、令和4年度から燕労災病院でPREER救急を実施しています。月曜日から土曜日までの日中、救急科医が救急外来を担当し、救急隊と病院の職員、関係機関との連携の仕方を学んできました。これにより、開始以降の救急車の受入台数は令和3年度の1.7倍となりました。

また、病院の建物建設は順調で、予定どおり12月上旬に完成の見込みです。

病院で勤務する職員については、開院時に必要な看護師やその他医療スタッフは、ほぼ確保でき

ています。

**市長**

病院建設の様子はテレビやYouTubeなどで情報発信されており、市民の方も目にして安心していただいています。

開院に当たって看護師が約400人必要ということで、三条市としても、済生会新潟県央基幹病院を含めた市内の医療機関

済生会新潟県央基幹病院  
開院するとどう変わる？

ポイント

- 1 各医療機関が役割を分担。基幹病院は救急・高度医療、地域の病院は高齢者医療、軽症患者の救急、外来に対応
- 2 まずはかかりつけ医の受診を。基幹病院での診療には紹介状が必要（一部の場合を除く。）
- 3 基幹病院で受け入れても、症状が落ち着いたら地域の病院に転院。ひとつの病院のように連携

県央地域の  
今後の医療体制について  
説明します

新しくなる県央地域の医療体制と病院の受診の仕方について説明します。申し込みは不要です。直接会場にお越しください。

とき	ところ
10月15日(日) 午後2時	・第四中学校
10月21日(土) 午後2時	・大崎会館 ・農村環境改善センター(栄地域)
10月22日(日) 午前10時	・下田公民館
10月29日(日) 午前10時	・総合福祉センター ・三条東公民館
11月4日(土) 午後2時	・中央公民館 ・大島公民館

\*時間は1時間30分程度です。

